

大涌谷の真正クモ類 (I)

池田 博明

はじめに

箱根の真正クモ類の報告はほとんどない。東京クモ談話会の合宿が、これまでに2回行われているが、いずれも結果が公表されていない。箱根に限らず、神奈川県西部のクモ相調査は丹沢を除くと、現状ではたいへん貧しいものといえるだろう。今回は大涌谷自然科学館周辺で、1986年8月から1987年1月まで行った調査をもとにして報告する。なお調査は小田原城内高等学校生物研究部の活動の一環として行った。調査には池田の他、生物研究部顧問 佐藤伸一・稲葉茂代、生物研究部員 高橋祐子・久保寺みか、佐藤信恵が参加した。

調査地と調査方法

大涌谷自然科学館周辺および大涌谷自然研究路で毎月1, 2回、平日の16時から21時まで採集した。採集方法は主に見つけどりとビーティングで、時にスィーピングも行った。採集したクモはその場で75%エタノールに入れて液浸標本とし、持ち帰って同定した。大涌谷自然科学館周辺は標高約1,000 m、硫化水素の煙の吹きあげるきびしい環境である。

採集目録

今回は成体が採集された種のみ同定した。成体でも未同定のものが数種ある(サラグモ科とフクログモ科)。和名の後に同定者を記していないものは池田が同定した。科の配列は新海・高野(1984)により、種名は八木沼(1986)によった。科内の種の配列は学名のアルファベット順とした。学名の命名者は省いた。採集時の令はF(雌成体)、M(雄成体)で表した。令の後の数字は頭数、採集年はすべて1986年である。採集者名は次のように略した。池田=HI, 佐藤(伸)=SS, 稲葉=SI, 佐藤(信)=NS, 高橋=YT, 久保寺=MK, また、生息状況について種毎に若干付記した。

ヒメグモ科

1. *Achearanea tepidariorum* オオヒメグモ

かん木の間不規則網を張っている。平地では優占しているが、ここでは多くない。F 2 (1-VIII, YT・NS, SI)

2. *Achearanea nipponica* オオツリガネヒメグモ

前種より小型である。F 1 (1-VIII, YT・NS), F 1 (15-VIII, SI)

3. *Argyroides saganus* ヤリグモ

かん木の間およびササ間にいて、他のクモを襲う。8月には成体とともに幼体がかかりいる。F 2 M 1 (1-VIII, SS, HI)

4. *Chryso venusta* コガネヒメグモ

雑木林の葉裏にいる。あまり多くない。F 2 (1-VIII, SI, YT・NS)

5. *Dipoena mustarina* カニミジグモ

8・9月には幼体が多い。F 1 (22-IX, MK), F 2 M 2 (22-IX, SI, SS)

6. *Dipoena punctisparsa* シモフリミジグモ

個体数は前種ほどではない。M 1 (1-VIII, HI)

7. *Episinus affinis* ヒシガタグモ

優占種である。神山への登山道のわきの枝間に夜間、逆Y字型網を作る。F 1 (1-VIII, SI), M 1 (15-VIII, SS), M 1 (29-VIII, HI), F 3 (22-IX, SI, HI)

8. *Episinus kitazawai* シモフリヒシガタグモ

9月に一頭採集された。F 1 (22-IX, SI)。11月に幼体が一頭採集され(19-XI, HI)、この他に同日にハラナガヒシガタグモの幼体も採集された。

9. *Theridion sterninotatum* ムナボシヒメグモ (熊田憲一 同定)

クモを食べるクモである。8月には卵のうを持っていた。F 2 (1-VIII, SI, HI)

10. *Theridion subadultum* コケヒメグモ

8月には卵のうを持っていた。F 1 (1-VIII, SI)

サラグモ科

11. *Arcuphantes osugiensis* オオスギヤミサラグモ

多く取れない。F 1 (15-VIII, SS), F 1 (27-X, HI)

12. *Erigonidium nigriterminorum* ハシグロナンキングモ

8月にササ群集をビーティングするとたくさん取れる。F 11 (1-VIII, SI, SS, HI)

13. *Linyphia angulifera* ハンモックサラグモ (新海栄一 同定)

8月に雌成体, 9月22日には雄亜成体も取れた。 F 1 (1-VIII, H I)

14. *Strandella quadrimaculata* ヨツボシサラグモ

幼体はよく取れる。 F 1 (1-VIII, S I)

コガネグモ科

15. *Araneus ishisawai* イシサワオニグモ

成体は1 m以上の高さの枝間に垂直円網を張る。 F 2 (1-VIII, S S, S I)

16. *Araniella sp.*, ムツボシオニグモ

幼体はよく取れる。 F 1 (1-VIII, S S)

17. *Pronous minutus* コオニグモモドキ

幼体はよく取れる。 F 1 (1-VIII, Y T · N S)

タナグモ科

18. *Coelotes corasides* ヤマヤチグモ

10月, 自然研究路のササ葉に優占する。 F 3 M 1 (22-IX, Y T · N S), F 6 M 6 (27-X, S S, S I, H I)

キシダグモ科

19. *Pisaura lama* アズマキシダグモ

イオウイロハシリグモなどはその幼体も取れていない。 F 1 (1-VIII, S I)

コモリグモ科

20. *Pardosa sp.*, ハリゲコモリグモ複合群の一種 (田中穂積同定)

種名の決定には雄成体が必要である。 F 1 (1-VIII, S S)

カニグモ科

21. *Xysticus kurilensis* チシマカニグモ (小野展嗣同定)

Ono (1986)によると, 原記載(1907)以来, 長らくその正体が不明だったが, 実際には北海道から九州の各地で採集されていた。個体数は多くない。ピーティングで取れた。 F 2 (1-VIII, S S)

ハエトリグモ科

22. *Yaginumaella ususudi* ウススジハエトリ

8月, 葉間に優占する。 F 4 M 3 (1-VIII, A L L), M 2 (22-IX, H I, N S · Y T)

フクログモ科

23. *Clubiona japonica* ヤマトフクログモ

幼体はよく取れる。同属の別種も生息している。 F 2 (15-VIII, S I · Y T)

ウエムラグモ科

24. *Phrurolithus claripes* イナズマウラシマグモ

地表面やリター層を歩行する。8月以降取れない。 F 7 M 1 (15 - VIII, ALL)

ワシグモ科

25. *Kishidaia albimaculata* ヨツボシワシグモ (加村隆英同定)

ビーティングにより採集。 F 1 (1 - VIII, SS)

この他、まだ成体は取れていないが、ほぼ種名のわかるものに、ジグモ、アケボノユウレイグモ、ホシミドリヒメグモ、ヘリジロサラグモ、メガネドヨウグモ、ウロコアシナガグモ、アオグロハシリグモ、ワカバグモ、マミジロハエトリ、キレワハエトリ、コジャバラハエトリ、アメイロハエトリ、コアシダカグモがある。平地で優占しているジョロウグモやコクサグモなどは見られない。

謝 辞

標本を見て御意見を下さった方々、浅間茂、小野展嗣、加村隆英、熊田憲一、斉藤博、新海栄一、田中穂積、谷川明男、松本誠治、吉田哉の諸氏に感謝します。

参 考 文 献

Oi, R. (1960) Linyphid Spiders of Japan. J. Inst. Polytech. Osaka City Univ., Ser. D. 11:136-244, pls. 1-26.

Ono, H. (1986) Spiders of Families Clubionidae, Gnaphosidae and Thomisidae from the Noto Peninsula and the Southern Part of Ishikawa Prefecture, Japan. Memo. Natn. Sci., Tokyo, (19):167-174.

新海栄一・高野伸二 (1984) クモ。 東海大学出版会

八木沼健夫 (1986) 原色日本クモ類図鑑。 保育社

(神奈川県立小田原城内高等学校)

大涌谷の真正クモ類 (II)

池田博明・石原龍雄

神奈川県足柄下郡箱根町の大涌谷自然科学館周辺の真正クモ類については前報で25種を報告した(池田, 1987)。その後、あらたに種名が判明したものや、同地で石原が採集した標本を池田が同定して、19種を追加できたので、報告する。

箱根は人家周辺で高山性のクモが観察できること、生物地理学上の要地であることなど興味深い点が多いにも関わらず、クモ相に関しても各種の生態にしても調査が不十分である。なお、前報以後に、箱根地方のクモ相資料としては、東京蜘蛛談話会の箱根合宿報告が出ている(熊田・加藤, 1987)。筆者らも仙石原地区で興味深い種を記録しているので、順次発表していくつもりである。

今回の報告には、ハコネフクログモを加えることができた。このクモは、大涌谷で採集した標本をタイプ標本として、小野展嗣博士(国立科学博物館所属)により新種として記載されたものである(Ono, 1992)。和名に箱根を冠したクモは初めてである。一般に微小なクモや山岳部のクモではさらに新種が期待されるので、より多くの箱根在住者にクモについて関心をもって欲しいと思う。なお、ヤチグモの一部は西川喜朗追手門学院大学教授に同定していただいた。記して謝意を表する。

採集目録

前報同様、成体が採集された種のみ同定した。種名は八木沼(1990)によったが、ニセヤマイロオニグモは八木沼(1990)には無く、仮名である。科内の種は学名のアルファベット順とし、学名の命名者は省いた。番号は前報からの通し番号とした。採集時の令はF(雌成体)、M(雄成体)で表した。令の後の数字は採集個体数である。()内に採集月日(日-月-西暦年の十位と一位)と採集者を記した。

ヒメグモ科

26. ツリガネヒメグモ *Achaearanea anglithorax*

F 1 M 1 (12-VI-89, 石原)

27. ホシミドリヒメグモ *Chrysso punctifera*

F 1 (12-VI-89, 石原)

28. ハラナガヒシガタグモ *Episinus mirabilis*

M 1 F 1 (22-VI-87, 池田)

サラグモ科

29. ヘリジロサラグモ *Linyphia oidedicata*
M 1 (28-V-89, 石原)
30. ヒメヨツボシサラグモ *Strandella yaginumai*
M 1 (28-V-89, 石原), F 1 M 1 (12-VI-89, 石原)

コガネグモ科

31. ニセヤミイロオニグモ *Araneus* sp.
M 1 (28-V-89, 石原)
32. マメオニグモ *Araneus* sp.
F 1 (28-IV-87, 稲葉茂代), F 1 M 1 (12-VI-89, 石原)

タナグモ科

33. クロヤチグモ *Coelotes exitialis*
M 1 (28-V-89, 石原)
34. アズマヤチグモ *Coelotes kitazawai*
F 1 M 2 (7-X-88, 石原)
35. シモフリヤチグモ *Coelotes insidiosus*
M 1 (7-X-88, 石原)
36. ヤマヤチグモの一種 *Coelotes* sp. 西川同定
F 1 (7-X-88, 石原)
37. カチドキナミハグモ *Cybaeus nipponicus*
F 1 (7-X-88, 石原)

カニグモ科

38. アマギエビスグモ *Lysiteles coronatus*
M 1 (26-V-87, 佐藤伸一)

ハエトリグモ科

39. イワテハエトリ *Euophrys iwatensis*
F 1 (12-VI-89, 石原)
40. ネオンハエトリ *Neon reticulatus*
M 1 (28-V-89, 石原)
41. アメイロハエトリ *Synagelides agoriformis*
M 1 (14-X-89, 石原)

フクログモ科

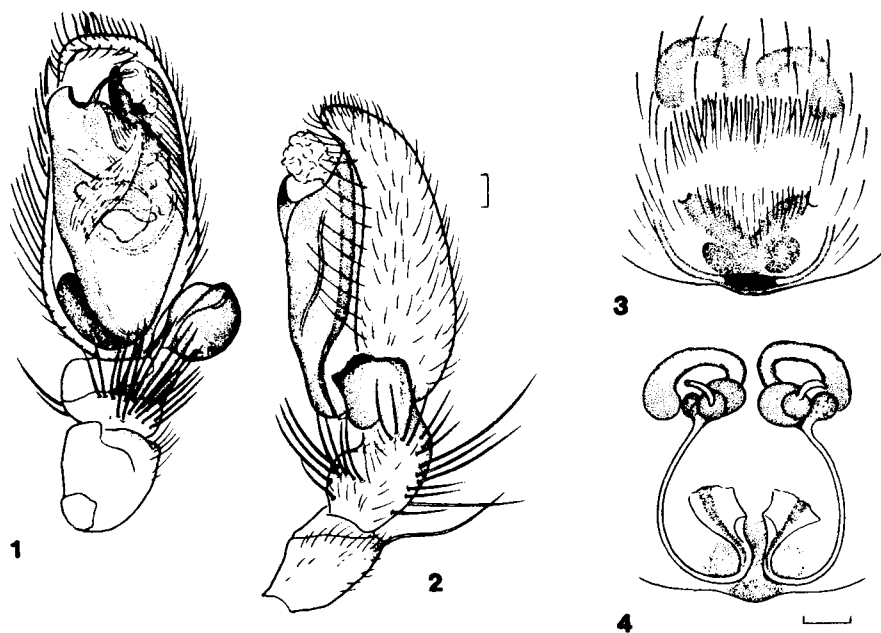
42. ヒメフクログモ *Clubiona kurilensis*
M 1 (28-IV-87, 久保寺みか)
44. ハコネフクログモ *Clubiona ikedai* 小野同定
F 1 M 1 (22-IX-86, 稲葉)、M 1 (27-X-86, 池田)、F 1 (27-X-86, 稲葉)、
M 4 F 3 (28-IV-87, 石原)、F 1 (12-VI-89, 石原)
43. マイコフクログモ *Clubiona rostrata*
F 1 M 1 (12-VI-89, 石原)

ハコネフクログモについて

体形や体色（黄褐色である）はフクログモ属に典型的なもので、雌雄とも生殖器以外の点で他の種と区別することは不可能である。

しかし、生殖器（雄の触肢先端および雌の外雌器、図参照）は特異な構造をしており、他種との識別は容易である。種グループとしては、*Clubiona obesa*群に属し、近縁と考えられる種にチクニフクログモ *Clubiona chikunii*がある。

体長は雌 6.59~7.22 mm、雄で 5.78~5.85 mm。箱根以外では静岡県の天城峠での雌雄 1 頭ずつの採集記録がある（熊田憲一による、8-V-85）。



図の説明 ハコネフクログモ 1. 雄の触肢先端 (腹面視); 2. 同 (側面視);
 3. 雌の外雌器 (腹面視); 4. 雌の内部生殖器 (背面視). スケールは0.1mm
 (Ono, 1992より許可を得て転載)

引用文献

池田博明、1987. 大涌谷の真正クモ類 (I)、大涌谷自然科学館調査研究報告. 第7号、17-20.

熊田憲一・加藤輝代子、1987. 箱根合宿のクモ. *Kishidaia*, (55):17-24.

Ono, H., 1992. Two new *Clubiona* spiders (Araneae: Clubionidae) from Japan.

Acta arachnol., 41(2):187-191.

八木沼健夫、1990. 日本産クモ類目録(1989). IN 『クモの学名と和名』, pp 243-287. 九州大学出版会.

(池田：神奈川県立青少年センター・石原：箱根町立 森のふれあい館)

BULLETIN
of the
OWAKIDANI NATURAL HISTORY MUSEUM, HAKONE

No. 12

大涌谷自然科学館
調査研究報告
第12号

新たに採捕された蜘蛛に奇形のあるアメリカザリガニ……………

寸木 肇・石原龍雄 1

大涌谷の真正クモ類(II)……………池田博明・石原龍雄 5

1 9 9 4

箱根町立大涌谷自然科学館

OWAKIDANI NATURAL HISTORY MUSEUM

HAKONE, 250-06